



袋小だより

令和4年1月号

北区立袋小学校

URL <http://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu/fukuro/index.html>

新しい1年を始めましょう

校長 新紺 明典

明けましておめでとうございます。穏やかに新年を迎えられたことと存じます。

今年も、保護者や地域の皆様と共に、全力で教育活動を実践して参ります。どうぞよろしく願いいたします。

冬休みが終わり、子供たちが学校に戻ってきました。令和4年の始まりです。コロナ禍ではありましたが少しずつ緩和され、年末年始は御家族や近しい方々と過ごし、「令和3年もすごい年だった。令和4年はどうなるかね? いい年にしたいね」などとたくさん話したのではないのでしょうか。新しい年に期待が膨らみます。

今年も干支から令和4年(2022年)を考えてみます。(諸説あるとは思いますが。)令和4年(2022年)の干支は「壬寅(みずのえ とら)」です。

「壬」(みずのえ)の文字の意味は、厳冬を耐えて内に蓄えた陽気で次代の礎となること。土の下で芽が膨んで土がぐんと盛り上がっている様子、もしくは生き物が子孫を残すための繁殖期を表すようです。

「寅」(とら)は十二支の3番目で、生命の循環で言えば初めの位置に近く、誕生を表しているようです。

「寅」の文字の意味は「蟻(ミミズ)に通じ、春の発芽の状態」、豊穰を助けるミミズが土の中で動き、芽吹きが始まった状態。暖かくなって虫たちが動き出し、春の胎動を表すようです。

「壬寅」(みずのえ とら)は「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるということらしいです。

去年は「辛丑(かのとうし)年」であり、「曲がっていたものが伸び始める」「上に向かうがづらいことがある」と学校便りに記しました。日本の十干十二支の言い伝えは当たっていたかもしれません。そうすると令和4年は華々しい年になりそうです。新型コロナウイルス感染症に注意しつつ、希望にあふれ、活気のある1年にしていきたいと思えます。

令和4年11月には、袋小学校開校80周年記念行事を行います。地域や保護者の皆様、関係する機関と共に教育活動を進めていきます。是非お力添えをいただきたく、お願いいたします。

1月行事予定



日	曜	内容	日	曜	内容
11	火	A4 校内席書会(5・6年)安全指導	24	月	クラブ(3年生クラブ見学)
12	水	校内席書会(1~4年)	25	火	
13	木	B6 身体測定(6年)	26	水	※
14	金	身体測定(5年)	27	木	
15	土		28	金	書き初め展終
16	日		29	土	
17	月	身体測定(4年) 委員会活動	30	日	
18	火	身体測定(3年)	31	月	
19	水	身体測定(2年)	2/1	火	A4 5-2のみ A5
20	木	B5 身体測定(1年)	2	水	A4
21	金	避難訓練	3	木	
22	土	A3 土曜授業(公開予定)書き初め展始	4	金	B6 新一年生保護者会
23	日		5	土	

26日 研究授業のため
A5 1-2 2-2 3-2
4-1 5年
A4 1-1 2-1 3-1
4-2 6年

※1月22日(土)の公開と書き初め展につきましては、後日配布する手紙をご覧ください。

どうぞお元気で よろしく願いいたします

この度、養護の阪本まなみ教諭が産休に入りました。後任として佐藤梨香子教諭が着任しました。

子ども祭り 12月22日(水)・23日(木) 特別活動担当 菊地 美紀

今年度は感染症予防対策として密を防ぐため、3年生と6年生、1年生と4年生、2年生と5年生のペア学年を作り、上の学年が店を開く形式で子ども祭りが行われました。短時間での準備ではありましたが、4～6年生はそれぞれ工夫を凝らし、楽しい店を開くことができました。今年、店が開けなかった学年の子たちも「来年はあんな店を開いてみたい！」という思いをもてました。



各クラスのお店の内容を紹介します。

- 4-1…グランプリンボー！、ねらって入れろ！的入れシュート、ケンの森パーの森の大運動会、落ち葉拾い競争
- 4-2…輪投げ、キャタピラーリレー、ボウリング、クイズリレー
- 5-1…ボウリング、キャタピラー競走、平均台（ドン じゃんけんぽん）、ワンバウンドシュート
- 5-2…バスケットシュートチャレンジ、ロンドン橋、ダック&グース、ストラッカーアウト
- 6-1…だるまさんが転んだ宝探し、アニマル的当て、レーザーミッションゲーム
- 6-2…万歩計計測、ストラッカーアウト、宝さがし
- 6-3…フリースロー、ジェスチャーゲーム、ポーズ合わせゲーム

1年生の様子～2年生への進級を目指して～ 1年担任 関口 好枝、増田 菜保子

4月、子供たちはドキドキワクワクしながら袋小学校での学校生活をスタートしました。教室の椅子にちょこんと座り、背筋をピンと伸ばし、一生懸命に話を聞く姿を思い出します。マスクを着けた生活で、新しい友達の顔と名前を覚えるのにも少し時間がかかりました。給食や体育の時間にマスクを外した時だけ相手の表情全体が分かり、子供たちは嬉しそうに笑顔を見せ、心がふっと解放される瞬間がありました。学校生活の様々な場面を通して、「友達がいるから楽しい。友達がいるから安心できる。友達がいるから頑張れる。」を感じています。また、運動会や学習発表会を通して、みんなの心を一つにして目標に向かって頑張ることの大切さを学びました。

新型コロナウイルスの感染予防の対策を取りながら、少しずつ他学年との交流も始まりました。2年生との生活科見学、4年生との子ども祭りなど楽しい時間を過ごしました。自分たちも「新しい1年生が入学してきたらこんなことをして一緒に遊びたい。」という思いが生まれました。

早いもので、1年生も残り3か月です。子供たちは少しずつ、次の学年への意識をもち始めています。引き続き、担任一同力を合わせ、2年生に向かって大きく一歩を踏み出せるよう、子供たちの思いに寄り添って生活していきます。

特別支援教育について 特別支援教育コーディネーター 林 史香

袋小学校では学級担任に加え、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員、巡回指導教員、巡回心理士、スクールカウンセラーなどが連携し、児童を見取ることで、より一人一人に合った支援ができるよう体制を整えています。

12月には東京都立王子特別支援学校の教員を招き教職員向けの研修会を行うなど、教員の特別支援教育への理解を促すとともに、児童理解も深めています。また、特別支援教室やことばの教室、日本語適応指導教室では、個々の課題に応じた指導を週に1～2時間程度行い、児童が学校生活を円滑に過ごすことができるようにしています。

昨年の紅白歌合戦のテーマ「カラフル」に「多様な価値観を認め合おう」という思いが込められていたように、「多様性」というワードはかなり注目されてきています。そして、教育現場にも、児童の多様性を認め、生かしていくことが求められています。その中で特別支援教育は、決して特別なものではなく、児童一人一人の個性を認め、伸ばしていくために必要不可欠なものなのです。

児童が自己を理解し、自分も他人も愛する大人へ成長するために、学校や家庭、その他の機関が連携し、児童を理解し認めていくことが大切です。今後とも、ご理解・ご協力をお願いいたします。